令和３年７月30日（月曜日）

日本音楽・盛岡二箏曲部

オリジナル曲 一体感

全国屈指の強豪、盛岡二箏曲部（吉田優花部長、部員13人）は２０１４年に文化庁長官賞、18年に優良賞を受賞した楽曲「ＩＮ ＭＥＭＯＲＩＡＭ ＡＥＮＥＡＳ（イン メモリアム アエネアス）」で、日本音楽部門の頂点を目指す。

同曲は釜石市出身の作曲家木村政巳さんが同部のために作ったオリジナル曲。音の強弱やテンポなどがきめ細かく、高度な技巧と緻密なアンサンブル能力が必要となる難曲だ。

練習が始まると、空気がぴりっと締まり、生徒の目に力が宿る。美しい六重奏にするため、他のパートの音にも耳を澄ませ、一体感のある演奏を心掛ける。

真剣な表情で練習に取り組む盛岡二箏曲部員

１９８４年の創部当初から同校を指導し続ける黒沢和雄さん(80)、千賀子さん(77)夫婦の息の合った指導の下、最後の追い込み練習に熱がこもる。和雄さんは「他校の演奏曲は名曲ばかり。審査員には二高オリジナル曲が新鮮に聞こえるだろう。思い切り演奏して、アピールしてほしい」と期待する。

体験入部で先輩の演奏を聞き、その迫力に感動して入部を決める生徒も多いが、近年部員数は減少傾向だ。今回は2人の3年生と6人の2年生という8人で全国の舞台に挑む。

3年生がメインで演奏する学校が多い中、1年分の練習量の差こそあるが、部員たちは気合十分。吉田部長（3年）は「今までの練習の成果を全て発揮し、みんなで悔いの残らない演奏をしたい」と決意する。

（岩手日報）